

昨年、さまざまな出来事があり、印象深い年でした。とりわけ経済は消費税率アップという大波に翻弄されつつも、徐々に明るい日差しも見えて来たようです。この1年を振り返りながら、新たな年「平成27年」への期待を、佐藤栄二市長と北村光弘会頭に語り尽くしていただきました。

「大きな変化の1年だったというのが実感です」(北村会頭)

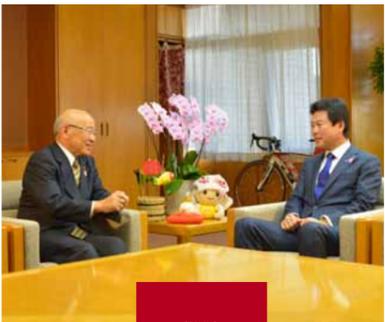
北村 市長、明けましておめでとございます。

佐藤 おめでとございます。本年もよろしく願います。

北村 昨年は消費税率が8%となり、景気にも大きな影響がありました。また、少子高齢化が進んだことで、消費の動向に変化が現れつつあるように感じています。大きな変化の1年だったというのが実感です。

佐藤 人口減少による地方都市の危機を訴えた本「地方消滅」が話題になりました。したが、宇都宮市は10年も前から危機感を持って行財政改革やまちづくりに取り組んできました。

今後必要なのは、人口減少にも対応できる都市構造の再構築。それが「ネットワーク型コンパクトシティ」です。エリアごとに核となる施設を整備し、デマンドタクシーな



〈特集〉
新春×対談

宇都宮市(行政)と

商工会議所(経済界)が、

力を合わせて魅カアツプ!

「選ばれる街」「住みたくなる街」宇都宮の実現に向け

ですが、宇都宮市は10年も前から危機感を持って行財政改革やまちづくりに取り組んできました。

ど地域内の公共交通も充実させます。地域の中で、日常生活は十分に送ることができるようになっていきます。そして地域の外に出る時は、鉄道やバス、LRTなどを利用していただき、エリア同士をネットワークすることで、都市機能を充実させていきます。これにより、住み良いまちづくりを進



さとう・えいいち

昭和36年生まれ。明治大学法学部法律学科卒業。昭和61年3月から平成16年11月まで北関東観光開発(株)代表取締役。平成9年、(社)宇都宮青年会議所理事専任。平成12年、(社)日本青年会議所副会頭就任。ほかに、宇都宮商工会議所青年部長などを務める。平成16年11月28日から宇都宮市長(3期目)。

める事ができると考えています。

北村 宇都宮の魅力づくりを考える際に、「住みやすさ」は重要な視点だと思います。いろいろな調査を見ると、栃木県や宇都宮市の評価はかなり高くなっています。NEXCO東日本の調査で「高速道路で行きたい県」の第1位に栃木県が選ばれています。また東洋経済新報社の調査「住みよさランキング2014年版」では、50万人以上の都市の中で、宇都宮市が2年連続1位となっています。

ですから、宇都宮市の良さは他の地域の方々からは認識されていると思うのですが、まだまだPRが下手なんです。まず住民の皆さんに認識していただき、それを積極的に外へPRしていただくことが重要です。商工会議所も行政と一緒に、さらに努力をしていきたいと考えています。

定期的に行っている中心市街地の通行量調査結果が昨年1月に発表されましたが、2期連続で増えていました。日曜日だけでなく、平日もかなり人が出てきているのではないのでしょうか。

「商工会議所会員事業所の方々が、宇都宮の良さを発信してください」(佐藤市長)

佐藤 商工会議所会員事業所の方々が、率先して宇都宮の良さを市民や外に向かって、行政と一緒にどんどん発信していただけると、全市民的な広がりが生まれるのだと思います。もちろん私たち行政も、

宇都宮商工会議所会頭

佐藤栄二×北村光弘

宇都宮市長

つと努力をしていかなくてははいけません。商工会議所さんにもご協力いただけたらとありがたいですね。

北村 宇都宮市(行政)と私どもとは、問題意識についてはかなり一致してきているのではないのでしょうか。それをさらに進めるために、宇都宮市や栃木県、さらには国に対して「企業活動の現場で起こっていること」を伝えることが、最大の使命ではないかと感じています。

佐藤 最近マスコミでは「景気回復」などの文言も見られますが、地方都市の中小企業にはまだ恩恵が届いていないのではないのでしょうか。生活者にとっても、景気が良くなっている実感はなかなか無いと思います。政権が言うところの「地方創生」すなわち「地方の発展なくして国の発展はない」という理念・政策は非常に

重要だと思しますので、ぜひ実行していただきたいと思っています。

北村 昨年4月には消費税率が5%から8%に上がりました。この影響は、予想以上に深刻です。

佐藤 8%から10%へのアップは、1年半延期となりました。国にはこの間に、さらなる行財政改革を進めていただきたいですね。

北村 円安や株高は良い面もありますが、材料費が高くなってもそれを価格に転嫁できず、苦しんでいる企業もあります。大企業は力がありますから、中小企業に対する思いやりを、もう少し持っていただく努力をしていただきたいと思います。もちろん、基本は「自助努力」であることと十分認識しなければなりません。昨年11月には、栃木県事業引継ぎ支援

きたむら・みつひろ

昭和17年生まれ。慶応義塾大学法学部法律学科卒業後、(株)横倉本店に入社。平成12年から同社代表取締役会長を務める。平成19年から宇都宮商工会議所副会頭を務め、平成22年11月に第18代会頭に就任。ほかに公正取引委員会独占禁止政策協力委員、日本商工会議所常議員、栃木県商工会議所連合会会長、宇都宮地区雇用協会会長など多数務める。

センターを設置し、中小企業の事業承継に関するさまざまな相談を受け付けています。こうした事業も、私どもの重要な役割だと思っています。

また、私どもでは、西口の路線も含めて、LRTを早く実現していただきたいと考えています。

佐藤 平成28年度には、J-R宇都宮駅東側を先行して着工し、平成31年くらいには運行開始したいと考えています。

LRTは大きな経済波及効果を生み出すので、市としても積極的に整備していくつもりです。もちろん西側についても、計画にあるとおり着実に進めていきたいと思っていますが、さまざまな要因がありますので、商店街の方々にも声を上げていただけたらありがたいですね。

北村 昨年7月には、県内経済6団体による「栃木県LRT研究会」を設立するなど、実現に向けての動きを活発化させつつあります。

「餃子の像を、ぜひ記念撮影のスポットにしていきたい」(北村会頭)

北村 食の分野でも、昨年はいろいろな話題が生まれました。

佐藤 昨年1月に「とちぎの地元の酒で乾杯を促進する条例」が施行され、地酒への注目がアップしましたね。
北村 オリオン通りをよく歩くのですが、飲食店関係の方々が努力されているのが分かります。酒造メーカーも喜んでいきます。佐藤 何といつても、餃子消費量日本一奪



2度目の引越をした餃子の街宇都宮のシンボル「餃子像」

還はうれしいニュースだったと思います。

北村 餃子の知名度はすごいですね。餃子と言えば宇都宮。北は北海道から南は沖縄まで知れ渡っています。ナンバーワンになることで生まれる経済波及効果を、身にしみて感じました。

また、餃子の像が10月にベドストリアンデツキに移動し、こちらにも注目度がぐんと上がりました。

佐藤 餃子の像のこれまでの場所は、さまざまな方から「あそこではもったいない」という意見が出ていました。餃子日本一になったことにより、注目度が上がり、宇都宮市民の意識も上がったのだと思います。だからこそ餃子像もベドストリアンデツキの上にといいことになったのだと思います。

北村 非常にいい場所に移転できました。あそこに立つと、宇都宮の駅が見えて、大通りもずっと見渡せる。ぜひ、あそこを記念撮影のスポットにしていきたいですね。

佐藤 これからは、同じ日本一でも「消費量日本一」ではなく「餃子日本一」を目指したいですね。これまで餃子会、行政、商工会議所が一体になって、餃子によるまちづくりを進めてきました。これからは、



平成26年を振り返り、平成27年の取り組みについて語る、北村会頭と佐藤市長

の延伸につながりますから、重要だと思います。栃木県は脳疾患や心疾患が多いのですが、これらはいわば生活習慣病ですから、食生活の改善とともに、スポーツを通じて運動量の増加につながればいいですね。

「藤井元会頭には、最後まで教えられました」（北村会頭）

北村 昨年は残念なことに、宇都宮商工会議所の重鎮でありました藤井清さんが、9月に亡くなりました。

藤井元会頭の功績は数多くありますが、中でも「宇都宮の歴史をどう伝えて行くか」に力を注がれました。そのつの成果が、宇都宮城址公園ではないでしょうか。

佐藤 藤井元会頭が主導した「よみがえれ！ 宇都宮城」運動の結果、整備された宇都宮城址公園が、今ではイベントの時に多くの方に来ていただける、にぎわいの場となりました。利用頻度、利用価値はすごく大きなものがあると思います。こんなにもプラスの遺産を、私たちに残していただき、藤井元会頭に改めて感謝しなければならぬと思います。



市民有志の力で復活した火焔太鼓山車の巡行(菊水祭)

北村 歴史を大切に作る気風は今も引き継がれています。昨年の秋の菊水祭では、市民有志が中心となって、火焔太鼓山車が復活しました。今後もぜひ続けて欲しいですね。

佐藤 さきほど会頭がおっしゃった通り、さまざまな調査で宇都宮市の評価が高いことも喜ばしいことです。もちろん行政としてはそれらに一喜一憂しているわけではないのですが、近年、他の市町村の首長さんや議員さんが、視察で宇都宮市に来られるケースが増えています。その背景には、宇都宮市に対する好評価があると思います。

北村 宇都宮市民はもっと自信を持って欲しいですね。

佐藤 「全国人気の街調査(2014年上半期)」（ネクスト）では、関東エリアで17位です。あの、若者の街として有名な下北沢が24位で、それより上なのです。シモキタは若い人たちの憧れの街じゃないですか。ということは、宇都宮市が若い人たちからも選ばれているんじゃないかと思えます。

北村 すばらしいですね。

佐藤 視察に来られる方と話をすると「ここからは限られた行政資源をどう使っていくか。そのためにはまちづくりとしての都市構造をどう考えて行くかが重要だが、それには宇都宮市のケースが非常に参考になる」と話されます。そういう高い評価をいただいているという点が、昨年の大きな印象ですね。

北村 魅力度が目に見えてアップしていますね。

餃子を宇都宮の食文化として、これまで以上にどう確立させて行くか、高めて行くかに力を入れるべきだと思えます。

昨今は「健康寿命」が唱えられています。健康寿命につながるような餃子の食べ方を考えるのも楽しいのではないのでしょうか。あるいは、地酒の消費にもつながる餃子のあり方などいいですね。そのような、ちょっと高度な考え方もあった、餃子によるまちづくりを進めて行っただ方がいいと思います。消費量の1番、2番というのは、もう卒業ということではないでしょうか。

北村 宇都宮市は餃子だけでなく、イチゴやトマト、ナシなど魅力ある農作物が多いのではないのでしょうか。

私たちの年代になりますと、体を壊す友人が増えています。その際においしい果物を贈ると喜ばれますね。

佐藤 宇都宮市は農業・商業・工業のバランスが良く、いつでも安全・安心で新鮮な農産物が手に入ります。これは大きな特色です。ですから、さらに進めて行くために、行政も適切な支援を通して、今後とも市民の皆さんに、安全で安心な食物を提供することが続けられるまちづくりをしていきたいと思えます。

「スポーツの振興を、健康寿命の延伸につなげるのが重要です」（佐藤市長）

北村 スポーツの話題も豊富でした。清原工業団地で昨年3月に「第1回宇都宮クリテリウム」が開催されました。また、宇都宮プリツェンが2年ぶりにJプロツア



函館市で開かれた「はやぶさ」の宇都宮駅停車への連携のための三者会議に出席した市長、議長、会頭

「新幹線「はやぶさ」の停車実現を」（佐藤市長）

佐藤 ここまで成長した宇都宮市に、さらに磨きをかけるためにも、新幹線「はやぶさ」は宇都宮に停まっていたらいいと思いません。

北村 商工会議所としても全面的に協力していきたいと思えます。

佐藤 今後よりいっそう連携をとって、今まで以上の動きをしないとイケないので、今後も頼りにしています。よろしくお願います。

北村 また昨年は、日本商工会議所青年部第33回全国大会とちぎ宇都宮大会を2月に開催、全国から約4700人が集まりました。若い経営者に宇都宮市の魅力を伝えることができたと思えます。

佐藤 私もあいさつさせていただきました。すばらしい熱気でしたね。

「宇都宮市が「選ばれる街」になるようにしていきたいですね」（佐藤市長）

1年間総合優勝を決めました。栃木SCの債務問題も市民の協力で峠を越え、いい話が続いた年だったと思えます。

佐藤 三大プロスポーツチームが宇都宮にあることは、これからの「都市の魅力」という点では、大きなアドバンテージだと思います。これをいかに維持し、良い成績を残すために、行政もチームと連携をとって力を入れて行くことが重要だと考えています。

特にジャパンカップ。今やアジア最高位の大会となり、昨年は約8万人の来場者を記録しています。前日のクリテリウムは約4万1千人で、いずれも過去最高の数字です。これも、宇都宮の魅力発信につながっていると思えます。

北村 私もジャパンカップを見ていたのですが、県外からの人もかなり来ていますね。「宇都宮」自転車」としての認知度もすごいのかと感じました。

その影響か、自転車の購入量も増えているそうですね。購入額日本一というデータもあるそうです。

私の友人にも、やつている人が増えましたから、うなずけます。

佐藤 そうですか、すばらしいですね。

スポーツは見るだけでなく、自分でも体を動かせば、食同様「健康寿命」



全国から約4700人が参加した日本商工会議所青年部第33回全国大会「ちぎ宇都宮大会」

佐藤 今年は地方創生、景気回復に向けて、国も地方も一丸となってやっていかなくてはいけないと思えます。特に地方の役割は大きいでしょう。地方が良くなるなら、国が良くなると思います。ですから、国任せではなく、宇都宮市が今まで続けてきたまちづくりを継続していくとともに、やはりネットワーク型コンパクトシティ、そしてそれぞれのソフト事業の中での魅力づくり、そういったものにさらに磨きをかけて、宇都宮が「選ばれる街」になるようにしていきたいと思えます。

言うまでもなく、宇都宮市の行財政改革は、これからも手を緩めるつもりはありません。健全な財政と、市民の皆さんから見えていただいても安心できる行政の経営をしていきたいと思えます。

北村 これから宇都宮市が発展するために重要なのは「地域は地域で支える」という覚悟です。それを、できるだけ多くの人に持つてもらおうことが一番ではないかと思つていきます。

私も商工会議所の仕事は、地域経済の活性化と、中小企業の発展に寄与する取り組みをすることですので、現場の意見をいかに聴いて、いかに中央に伝えて行くかということが重要でしょう。「実際に物事が起こっている現場に立ち、現場の声を届ける」ことに尽きるのではないのでしょうか。

さまざまな問題点もだいたい認識を共有化できたと思えます。今後とも地域のために力を尽くしていきたいと考えていますので、ぜひよろしくお願います。